



謹賀新年

令和八年 元旦



皆様 新年明けましておめでとう御座います。

新年のご挨拶としては堅すぎると思いますが、是非若い人たちにわかって欲しい事が有ります。中国の故事に由来する「雌鶏泣いて国傾く」という言葉がありますが、高市首相、片山財務大臣のコンビが主導する政策は日本の将来をあやうくするだろう、とくに若者の将来をあやくすると小生は危惧しています。その理由を述べます。

1) 高市氏は外交の能力を欠いている。

「台湾有事」発言は中国から見れば「宣戦布告」に等しい発言である事を理解していない。その無神経さが他国とのつきあい方にも表れてくるのではないかと心配です。かつてペロシ下院議長（当時）が訪台したときに、中国は大演習を行い、長距離砲の試射、海空での共同訓練、台湾北・南・東南の複数エリアにおける演習を繰り広げました。このような過去の事例があるにも関わらず、言わずもがなの軽口を叩いて 2.2 兆円（野村総研の推計）の損害を国に与えました。

2) 高市氏と片山氏は財務の能力を欠いている。

令和七年の補正予算成立後、円安が一層進行しました。その理由はいくつかあります。国債を発行して財源の相当部分を埋めた事により、マネー供給量が増え、又、金利を上げ難くなるとみた市場は円売りに走りました。円安は物価高をもたらし、庶民の暮らしを圧迫します。今令和八年度の予算が審議されて居ますが、減税の額に見合う税収が確保されて居ないようで、また国債の増発につながるのではなかと危惧して居ます。経済成長率低下の根本原因である未婚率の急激な上昇、その原因である非正規雇用労働者数の増加、高齢労働者へのりすキリングなど長期的な視点に立った対策が抜け、かならず増税をとまなうであろう防衛費を急激に増やそうとして居ます。デフレの時に金融緩和をするのは理解できますが、今はインフレが進行している一方であるのに、なぜ国債を発行してバラマキ政策を続けるのでしょうか。

3) 目先の評判ばかり追い求め、百年の計をめざしていない。

減税は目先の人気取政策にすぎず、結局は増税するか、国債発行をさらに進め破産国家への歩みを進めるか、どちらかの道を選ぶことになるでしょう。高市氏は「世界の真ん中で花開く日本外交」と宣言しましたが、世界情勢はトランプ氏の米国に代表れるごとく大きく変化して居ます。今までの米国に頼るだけの外交は最早通用しません。国際会議で目立つことが外交ではなく、諸国とどのような関係を築くことが今後の日本にとって大事であるか、百年先を見た方針をはやく立てるべきです。

若者よ：みずからの将来をしっかり見据えよ！！！！